

ふるさと・きずな維持・再生支援事業 事業提案書

【申請団体】

申請団体名 (協議体の場合のみ)	特定非営利活動法人 おぢや元気プロジェクト
代表団体名 (申請団体の)	
代表者の職・氏名	理事長・若林和枝
協議体構成団体①	
協議体構成団体②	
協議体構成団体③	
協議体構成団体④	

【団体情報】

団体ホームページ	http://www.ojiya-genki.jp/
又は公開予定日	

※情報公開を行っておらず、かつ公開する見込みのない団体については応募できません。

1 事業名

「心の駅」孤立防止と心のケア事業

2 事業の目的及び地域課題（200字以内）

東日本大震災から5年目を迎え、避難生活が長期化し、復興の個人格差も浮き彫りになる時期を迎えており、気づかぬうちに孤立やうつ状態になることもあります。ほっと一息つける場所「心の駅」を県内7箇所を設置しています。「心のケア」を目的として新潟と福島との交流を促進し、ネットワークを拡大し、人材育成にもつながるような事業を計画し実行してまいります。福島県が生き活きと発展していくことを願い継続してまいります。

3 事業の必要性（200字以内）

「心の駅」を利用し、定期的に交流会を行い、被災者の気持ちの底上げを行う必要があります。利用者とメンテナンスの共同作業を行い、被災者の孤立防止や心のケアに役立てます。傾聴し、一人一人の心に寄り添う活動をいたします。また、今年は、今まで皆さんとのふれあってきた時間を写真という形で表し、過去を振り返りながら、過去の自分を振り返ることにより、前に進む勇気づけを行い、振り返りの必要性があると考えています。

4 事業内容

【実施取組1】

「心の駅」による心のケア、傾聴交流会	
主な活動地域：南相馬市・いわき市	実施期間：H27/6月～H27 /3 月末

【取組内容】（100字以内）

南相馬市6ヶ所、いわき市1ヶ所に設置した「心の駅」をはじめ被災地域にて、お茶飲み会を開催し、傾聴活動を行う。今回は4年間のふれあいの中で撮りためた思いでの写真を皆さんにお持ち帰りいただきます。

【実施取組2】

お茶のみ交流会（アロマセラピー教室・傾聴）を行う。3.11にいわき市にて復興祭の開催、その後南相馬市仮設住宅の集会場や心の駅にて交流会を行う。	
主な活動地域：南相馬市・いわき市	実施期間：H27 /10月～H27 /3月末

【取組内容】（100字以内）

バラバラに避難している方たちが一堂に会する機会を作ります。いわき市の仏教会の方と小浜町と連携をとり、「復興祭」（慰霊祭を含む）と炊き出しを行い、参加者やNPOのメンバー等の学びの機会をつくります。

※実施取組に合わせて、数を追加してください。

5 事業効果（各200字以内）

避難生活が長期化する中で一人一人の復興に格差が表れ、取り残されていく不安の中で、傾聴は少しでも話すことで心が軽くなる効果があります。継続することで理解しあえる効果が期待できます。南相馬市やいわき市で自ら復興のために組織を立ち上げて頑張っている人も増えてまいりました。当法人も大規模災害をきっかけに発足しており、理解し合えることも多いと感じます。

これまでのつながりを生かしていきたいと思っております。

【情報発信力】

当法人のHP、フェイスブックから随時発信。マスコミに関しては、新聞各社（新潟県、福島県、全国版）、ラヂオ、テレビ局などの取材に応じています。イベントに関しては、チラシの制作と配布。そのほか、福島県の民間団体、行政、NPOを通じて情報発信を行っている。

6 実施団体の運営力強化（各200字以内）

【人材育成の観点】

精神対話士による傾聴についての講話やアロマセラピにストによる勉強会などを予定している。

【ネットワーク形成の観点】

福島県内7箇所の「心の駅」の運営管理を通じて仮設住宅や地元の区長さんをはじめ、キーマンの方々と細やかな連携が形成されてきました。3.11復興慰霊祭の開催は、小浜町、漁業組合、漁業組合婦人部、いわき市仏教会青年部や地元のNPO団体、報道機関と連携を密にとりながら進めています。

7 事業スケジュール（月ごと、箇条書き）

月	実施取組1	実施取組2
6月	いわき市 心のケア・傾聴・茶話会	
7月	南相馬市 心のケア・傾聴・茶話会	
8月	電子アルバム（今までの写真）準備	
9月	↓	
10月	いわき市 防災訓練・茶話会	計画と打ち合わせ
11月	↓	調整と準備
12月	南相馬市 心のケア・傾聴・茶話会	↓
1月		復興慰霊祭の実施
2月		
3月		

※表が足りない場合は、適宜追加してください。

8 事業の実現性について（200字以内）

既に福島県にお伺いして5年目となっております。傾聴活動も回を重ねるごとに私たちがお伺いすることを心待ちにして下さる方が増えてきました。待っていて下さる方たちの期待に応えるためにも、必ず実現いたします。南相馬市やいわき市の団体や個人の協力体制もありますので事業を実現させる上での体制がスムーズとなってきています。実現性としては高いと思っております。

9 事業終了後の展開・発展性（200字以内）

3. 11の復興慰霊祭は28年度も継続していきたいと考えています。孤立防止と心のケアの活動も補助金を活用しながら、ぜひ続けていかなければならない活動です。大きな展開や発展というよりは、地道な活動ですが、継続していき、一人でも多くの方が少しでも元気になり、その方が周りの方たちを元気にしていく。「元気になることの連鎖や循環」を生み出すことが重要であると考えます。

10 事業の先進性・普及性（200字以内）

手作り感のある「心の駅」は、誰もが立ち寄りやすいほっと一息つける先進的な場所です。壁や垣根のない交流環境になっております。新生活と新しいコミュニティづくりに役に立つ交流環境が「心の駅」によってスムーズに進んでいくように思います。
また、心の駅は「あなたも誰かの心の駅になれますよ」という考え方があります。その人にあうと「ホッ」とする「心の駅の人」になれる人を増やして普及していきたいと思えます。

11 特記事項（アピールポイントなど）（200字以内）

支援者が震災当初より減少しているように感じています。今年は一か所の滞在時間を延ばし、傾聴活動を行いたいと思えます。福島県内のNPOや民間団体との連携、そして県外の支援団体とも連携を図り、運営強化に努めてまいります。「心の駅」は集会場や公民館などと違い、オープン性が高く利用者が固定しないため、様々な人々との交流が可能になり、気軽にコミュニケーションが図れるので「心のケア」「孤立防止」に役立ちます。

12 その他の助成金について

<p>① 当該申請事業について、他の助成金も受けている。 答えが「はい」の場合のみ②へ</p>	<p>はい / <input type="checkbox"/> いいえ</p>
<p>② 他の助成金を受けているが、当該申請事業と明確に区別することができる。</p>	<p>はい / <input type="checkbox"/> いいえ</p>

※ 他の助成金を受けた事業と明確に区別することができない場合は応募できません。

第3号様式（第4条関係）

ふるさと・きずな維持・再生支援事業 収支予算書

申請者名 NPO法人おぢや元気プロジェクト

【支出の部】

（単位：千円）

区 分	平成 27 年度 予 算 額	明 細
人件費（共済費を含む）	648	心の駅交流会人件費 8,000 円×5 人×3 日×4 回 480,000 円 H28.3.11 小浜復興祭人件費 8,000 円×7 人×3 日 168,000 円
報償費	0	
旅費	367	心の駅交流事業宿泊代 1 泊 6,800 円×5 人×2 日×4 回 272,000 円 H28.3.11 小浜復興祭宿泊代 1 泊 6,800 円×7 人×2 日 95,200 円
需用費 a1+b1+c1	574	
消耗品費 a1	334	心の駅交流会費用 300 円×20 人×6 ヶ所×4 回 144,000 円（自己負担） H28.3.11 小浜復興祭 400 円×200 人 80,000 円（自己負担） プリンターインク・印画紙・文具・他 80,000 円 心の駅修理・修繕費 30,000 円
燃料費 b1	60	ガソリン代小千谷⇄福島県 12,000 円×5 回 60,000 円
印刷製本費 c1	180	心の駅交流会用チラシ 45 円×2,000 枚 90,000 円 H28.3.11 復興祭用チラシ 45 円×2,000 枚 90,000 円
役務費 a2+b2+c2	35	
通信運搬費 a2	8	郵送料 82 円×100 枚 8,200 円
手数料 b2	0	
保険料 c2	27	1 人 1,000 円×27 人（延べ人数） 27,000 円
使用料及び賃借料	210	レンタカー 10,000 円×15 日（延べ日数） 150,000 円 高速代小千谷⇄福島県 12,000 円×5 回 60,000 円
委託料	0	
A. 支出合計	1,834	千円未満切捨

【自己資金の部】※自己資金は支出合計の2割以上が必要です。

（単位：千円）

区 分	平成 27 年度 予 算 額	明 細
自己資金（負担者名）	367	
寄付金等	0	
その他収入	0	
事業収入	0	

B. 自己資金合計	367	千円未満切捨
-----------	-----	--------

【補助金交付申請額】 1,467 千円 (A. 支出合計 - B. 自己資金合計)

- 注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。
- 注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載すること。なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。
- 注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の使途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、使途の区分が分かる資料を添付すること。